

令和4年度 第1回京都府中丹地域戦略会議開催結果（概要版）

1 日時 令和4年8月30日（火） 14時～15時30分

2 場所 京都府綾部総合庁舎 第1会議室

3 出席者 【委員】出席8名（欠席4名）

【オブザーバ】各市企画担当課長等

【中丹振興局】高屋局長、内田副局長、和久地域連携・振興部長、
高野健康福祉部長中丹東保健所次長、岡田農林商工部長、
西村建設部長

4 主な意見等

《全体》

- ・広域振興局でしかできないこと、広域振興局だからこそできることを位置づけて取り組むべき。1市単独ではなく3市が連携してやることに注力すべき。

《若者定住・Uターン》

- ・綾部では、「オープンファクトリー」に今年度取り組むこととしているが、観光コンテンツとしてだけでなく、ふるさと教育や企業研修などにもつながるものと考えており、こういった動きが中丹地域に拡大していけばいいと思う。
- ・地元企業のマッチングについて、大学や学生は「院卒」でそこで得た知識を生かしたいが、企業側は「学部卒」でもよいというように求める人材が微妙にズレている。
- ・実際にどれくらいUターンが進んでいるのかのデータ確保を工夫すべき。
- ・山林は登山やキャンプ、また海にも近いので、そういったアクティビティの拠点として活用いただけるのではないかと考えている。また、最終的には移住にもつながるものと考えている。

《子育て》

- ・新型コロナの影響で、一人で出産、一人で子育てという方が多く、産後うつの方が増えている。
- ・地域外から引っ越してきた家族は車が「1人1台」ではなく、「1家1台」と夫婦で共有していることが多く、夫が車通勤、妻が子育て施設にバスを利用する方も多い。

《教育》

- ・20年後は現在の小中学生が責任世代となるため教育が重要であるが、新型コロナの影響で、児童・生徒は学校に行けていないため、学習機会が平等に与えられる環境整備が必要。
- ・過疎化により地域特性が異なると教育環境も違ってくる点に配慮してほしい。

《舞鶴港》

- ・コロナ前ではあるが、京都縦貫自動車道のおかげでクルーズや貨物量が増えた。港があるのとないのとでは、地域経済に与える効果は大きく違うと考えている。
- ・国や府が整備した港湾施設を使ってもらおうよう、荷主などにプロモーションすることが必要。
- ・大量の貨物を扱うのではなく、コンパクトな専用貨物を扱っていく必要がある。

《建設》

- ・「ゆめ実現」を目指す地域は理解できるが、建設業は仕事があっても夢が持てないようにな

ってきている。

- ・人手不足による技術力低下が顕著。行政の技術職員も不足しているが、行政がしっかりしないと民間はついていけないので、そこへの投資は喫緊の課題。

《林業》

- ・中丹地域は、他地域と比較して山が人家に近いことが特徴であり、人家の裏山の危険木除去依頼が多い。しかし、そういった場合に個人は支援の対象にならないので、人命を守るために支援をお願いしたい。